

経済産業省「認証産業の在り方に関する検討会」資料

JEITA からの認証に関する要望とコメント

2024年3月14日

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)

標準化政策部会 部会長

藤原 雄彦 (OKI 執行役員)

認証に関するJEITAからの期待と課題について

第2回検討会に参加し、認証機関様の課題認識を拝聴し、認証に対する課題と企業側としての認識を新たにすることがいくつかございました。

そこで、JEITA標準化政策部会、運営委員会で議論の上、今後の認証産業の在り方について、企業側の視点での期待と課題についてコメントさせていただきます。

■ 認証サービスへの期待

第1回の会合で事務局様から提示された左図にございますように、製品提供をする企業からの立場では、認証を取得するということは、**顧客ニーズを把握し、新たなマーケットを創出すること**を期待しています。

ただ、そのための**認証も対象が技術規格だけでなく、サービスやマネジメントシステムと多様化**しており、その変化への追従が求められている。



JEITAからの意見照会結果に基づくお願い

意見照会結果

まとめ

① 認証に関するニーズと費用対効果について、認証機関の専門家の皆様から参考になる情報、アドバイスをいただきたい。（例えば、IMSやAI）

② 認証機関の専門家の方に早い段階から規格や認証スキームづくりに入り込んで日本企業として対応し、有利となるよう働きかけていただきたい。

③ 規格完成前から、企業としてやるべきポイントのバランスまた一企業だけでなく、上流・下流を含めたについて認証機関と議論する場の設置が求められる。（例えば、グリーン分野でのデータ活用）

④ 企業として、認証の重要性とポイントを熟知した人材が欠かせない。そのような人材育成のためのプログラムづくりに認証機関の協力をいただきたい。

【アドバイス・コンサルの強化】認証をより有益に活用するためのアドバイス、コンサルの強化

【仕組みづくりの強化】特定企業だけでなく、上流から下流までで実現できる仕組の検討

【規格検討段階からの認証機関との協力】規格検討段階からの認証機関の参加、あるいは経産省検討中のモデルケースでの議論の場への参画を期待

【人材育成への協力】認証のポイントを熟知した人材育成の検討への協力

(参考) JEITA標準化運営委員の皆様への意見照会結果 1

認証機関を活用されている企業の立場で以下のような視点での課題やご提言を募集しました。

- ・企業のニーズが高い部分と現実に認証機関等が提供できる（している）部分の不一致
- ・企業・認証機関等間の連携不足
- ・「新たな価値軸」への対応他

企業名：株式会社日立製作所

課題と提言：

- ・ 社会、市場、顧客からの要請等により認証の取得を検討する際、費用対効果は重要なポイントである。認証機関には専門家として検討材料となる情報の提供やアドバイスをいただきたい。
- ・ AIの標準化の現場では、まさに欧州が新たな価値軸を作り上げて、欧州の認証機関・コンサルも加わって欧米企業と連携しており、日本はそれに引きずられている。この状況がグリーン化のような今後が期待される分野にも広がることを懸念している。
- ・ 弊社は多くのSDOに人を送り込んでいるが認証の専門家ではない。認証機関には早い段階から規格や認証スキーム作りに入り込んで日本企業がグローバル市場で有利となるよう企業とともに働きかけてくれるとありがたいと考える。

(参考) JEITA標準化運営委員の皆様への意見照会結果 2

認証機関を活用されている企業の立場で以下のような視点での課題やご提言を募集しました。

- ・企業のニーズが高い部分と現実に認証機関等が提供できる（している）部分の不一致
- ・企業・認証機関等間の連携不足
- ・「新たな価値軸」への対応他

企業名：沖電気工業株式会社

課題と提言：

- ・ 認証の対象がイノベーション・マネジメントシステム（IMS）など、経営の仕組みに関与してきている。
- ・ そこで、認証を取得することが経営の負荷になり、スピード感を失うことは望ましくない。
- ・ 一方で、自動車業界などで課題となっているように不正認証などは企業の信頼を失うこととなり、正しく認証を受けることは重要である。
- ・ そこで、規格が完成し、監査を受ける以前からやるべき事項のバランスについて、認証機関と企業が連携して議論する場の設置が望まれる。
- ・ また、企業においても、認証の重要性とポイントを熟知した人材の育成が欠かせず、人材育成のためのプログラムづくりに認証機関の皆様にご協力いただきたい。